

# 実験、観察等に向けたアニサキスの維持飼育法の試み

向井大歩<sup>1</sup> 西海太介<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 生物学研究教室 - なまけん - <sup>2</sup> 一般社団法人セルズ環境デザイン研究所)

## 緒言

アニサキス(図1)は、アニサキス症を引き起こす可能性があるため、公衆衛生の観点から注視すべき生物である。

しかし課題として、宿主から取り出されたアニサキスは10日ほどで死滅することが多く、実験や観察に向けた長期飼育は難しい状況にある。そこで本実験では、**塩分濃度を調整した食塩水、および魚肉を混ぜた培地を用い、アニサキスの生存日数の延長を試みた。**



図1. ホッケから採取したアニサキス

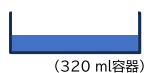
## 方法

### 食塩水 (液体培地)

アニサキス16匹 水道水<200 ml> (200 ml容器) 冷蔵庫で保管し、2週間おきに生存数を確認	アニサキス13匹 0.9%食塩水<200 ml> (生理食塩水と同濃度) (200 ml容器)	アニサキス12匹 3.4%食塩水<200 ml> (海水と同濃度) (200 ml容器)
---	--	---

### サバ培地 (液体培地)

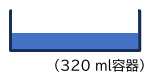
水道水200 ml、食塩2 g、砂糖1 g、サバ肉約30 g(ミンチ状)  
アニサキス5匹



濾過した後 冷蔵庫で保管  
2週間おきに生存数を確認

### サンマ培地 (固体培地)

水道水200 ml、食塩2 g、砂糖1 g、サンマ肉約30 g(ミンチ状)  
ゼラチン5 g、アニサキス4匹



濾過した後 冷蔵庫で保管  
2週間おきに生存数を確認

## 結果

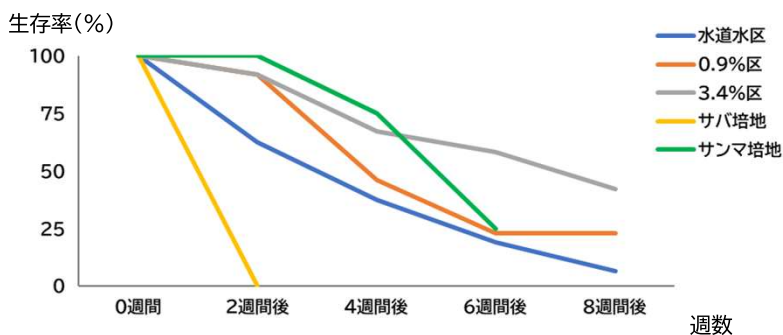


図2. 各実験区におけるアニサキスの生存率

全体を通して緩やかに生存率が減少していった。サンマ培地(固体培地)では、サンマのタンパク質分解酵素の影響が固形化しないことがあったが、4回の実験のうち、3匹が4週間生存し、固形化した培地に入った1匹は6週間生存した。

## 考察

食塩水においては**3.4%濃度が最も生存日数と生存率が最も高い結果となった。**

魚肉を用いた培地においては、**サンマ培地が飼育日数を伸ばせる可能性があるが、固形化したものが1例しかなかったため、状態による影響は不明である。**

今回は総合的に反復数が少なかったため、今後はより適した維持飼育法の開発のため、魚種や固形化の程度に注目した検証が必要である。

## 参考文献

鈴木 淳, 村田 理恵. (2011) 我が国におけるアニサキス症とアニサキス属幼線虫.

東京都健康安全研究センター年報. 62. 13~24.

魚食普及推進センター. アニサキスを飼育する.

<https://osakana.suisankai.or.jp/s-other/5661>. (2024年10月26日閲覧)